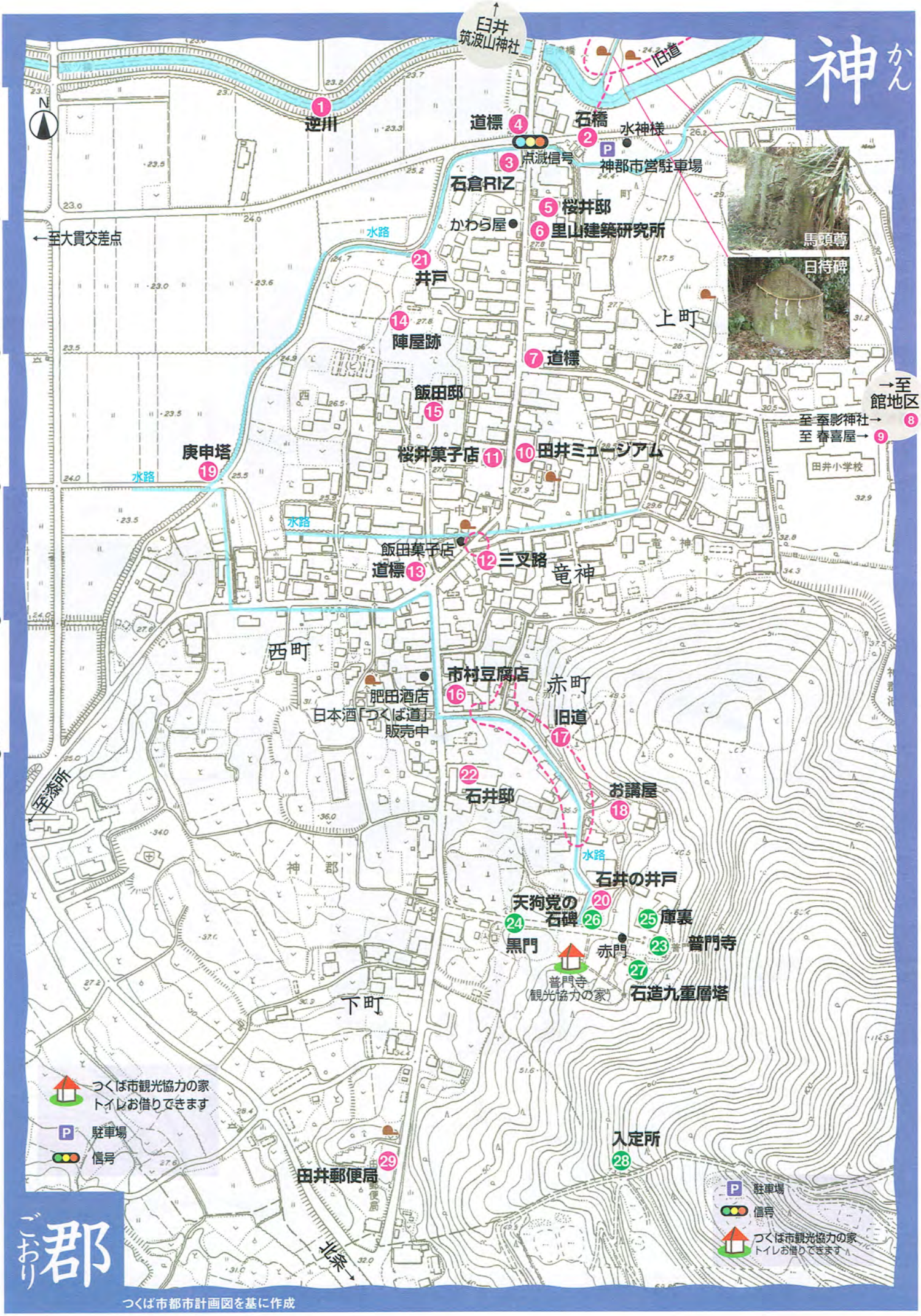
歩いて発見！ 神郡（かんごおり）マップ

北に筑波山を仰ぎ、東に連なる山々がのびる神郡（かんごおり）。
神郡条理という水田の遺構があり、
古くから米作りや田の粘土による瓦作りが行われていた。
舘（たて）地区には蚕を御神体とする蚕影神社がある。

江戸城の鬼門（東北方）を守る筑波山の中禅寺（現・筑波山神社）を
改築するために、三代将軍・徳川家光により整備された
北条～神郡～筑波をつなぐ運搬路は、
後に参詣道として発展して「つくば道」と呼ばれ、
現在「日本の道１００選」の一つである。


神かん
臼井
筑波山神社
旧道
500m
400
300
200
100
0m
N
1 逆川
道標 4
石橋 2
水神様
3 点滅信号
神郡市営駐車場
石倉RIZ
5 桜井邸
かわら屋
6 里山建築研究所
←至大貫交差点
水路
21 井戸
14 陣屋跡
上町
7 道標
飯田邸 15
→至館地区
至 奉影神社→ 8
至 春喜屋→ 9
庚申塔 19
桜井菓子店 11
10 田井ミュージアム
田井小学校
飯田菓子店
道標 13
12 三叉路
竜神
西町
市村豆腐店 16
赤町
肥田酒店
日本酒「つくば道」販売中
旧道 17
22 石井邸
お講屋 18
至漆所
神郡
石井の井戸 20
天狗党の石碑 24
26
25 庫裏
黒門
赤門
23 普門寺
27 石造九重層塔
普門寺（観光協力の家）
下町
入定所 28
田井郵便局 29
北条
馬頭尊
日待碑
つくば市観光協力の家 トイレお借りできます
駐車場
信号
ごおり郡
つくば市都市計画図を基に作成

逆川（さかさがわ）❶

かつては酒香川、酒匂川、鴨居川と呼ばれ、臼井から流れる橘川と合流していた。筑波山麓の沢水が集まって川となり神郡北を通る。逆川上流から続く川沿いの用水路は、神郡西の水田を潤していた。

石橋跡❷

神郡北から臼井へ向う道は、明治末期に十字路にされた。それ以前は、十字路東にある二十三夜石橋供養塔ちかくより石橋がかかり、杉の大木があった。対岸には馬頭尊や文禄二年（1593年）の日待碑があり、かつては来迎橋があったという。神郡の市営駐車場横には、水神様と道祖神の祠も祀られている。

石倉R－Z（リズ）❸

一九五二年（昭和二十七年）建設の大谷石作りの米倉。

点滅信号十字路の道標❹

昭和天皇即位記念として一九二八年（昭和三年）に建立。臼井・筑波、北条・土浦、立野・小幡、大貫・舘林の各方面を示す。

桜井邸❺

つくば道沿いに店蔵2棟にはさまれた門がある。北側の母屋は大正時代に改築され、銅板の屋根は当時としてはめずらしい。店蔵は江戸時代の建築。戦時中の空襲から逃れるために、蔵が黒く塗られたという。イベント時に公開され、米倉で民具の展示もある。

里山建築研究所❻

かつて店・質屋・隠居に使われていた桜井邸の店蔵を平成十六年（二〇〇四年）より筑波大学の安藤邦廣先生が研究所として活用。古民家の再生や古い建築様式を現代建築に取り入れる研究がされている。研究所の間取りにも欄間や無双窓などが活かされている。

http://www6.ocn.ne.jp/~s-archi/

蚕影神社の道標❼

一八八一年（明治十三年）建立。蚕の字が旧字体。

蚕影神社（こかげじんじゃ）❽

道標より約1km東。養蚕発祥の地として「金色姫（こんじきひめ）伝説」がある。天竺から桑の舟で流された姫が、この地で権太夫（ごんだゆう）夫妻に助けられたが、いつしか病で亡くなった。死後、姫は棺の中で蚕となり養蚕を伝え、恩返しをした（上写真は奉納された絵馬）。舘地区には「権太夫の宮」、逆川上流には「舟の宮」の石祠がある。本殿は江戸初期、拝殿は大正時代の建築。養蚕が盛んになった明治から昭和初期には、全国各地から参詣者が訪れ、奉納された絵馬が絵馬堂に今でも残る。拝殿の裏に鉱泉跡。約二百の石段の上に神社があり、石段沿いの紅葉がきれい。毎年三月二十八日は蚕糸祭、十月二十三日には秋の大祭が行われる。

春喜屋（はるきや）❾

昭和初期まで参詣者の旅館・休憩所を経営。現在も、神社にちなんだ蚕影羊羹や手ぬぐいを売っている。敷地内に湧き水あり。

田井（たい）**ミュージアム**❿

一九六十年（昭和三十五年）建築の大谷石作りの米倉を、平成十三年よりNPO法人自然生（じねんじょ）クラブがアートスペースとして活用。石の反響を活かしたシアターとアトリエがある。隣はイベント時にオープンのカフェソレイユがある。かつてはこの地に田井村の役場があった。

http://www17.ocn.ne.jp/~jinenjo

桜井菓子店⓫

大正初期創業。アンドーナツが有名。イベント時には祝事の和菓子「おしもの」を再現して販売する。

鋭角な三叉路⓬

昔からのT字路に新しく斜めの道が作られた。水路が横切る地点に石祠がある。

変則十字路の道標⓭

昭和天皇即位記念として、一九二八年（昭和三年）の建立。北条、漆所（うるしじょ）・下妻、臼井・筑波、蚕影山神社の各方面を示す。

陣屋跡⓮

江戸時代、筑波山南麓の八カ村を治めていた旗本五千石の井上家の陣屋（役所）があり、つくば道沿いに門があった。現在は、宅地や農地となっている。

飯田邸⓯

江戸初期の割本名主（井上領八ケ村の名主を代表して年貢を集積し貢納する名主）で、大飯田と呼ばれていた。

市村豆腐店⓰

一九二三年（大正十一年）創業。現在三代目。

旧道⓱

市村豆腐店より普門寺に続く道は、古くは普門寺を通り、山すそを越えて北条や平沢へ至る旧道であった。また、山の麓をめぐり現在の田井小学校方面へぬける道もあった。富士山をのぞむことができることから山頂には浅間神社が祀られている。

お講屋（おこうや）⓲

地域の信仰の場で、毎月二十一日に地域の女性が集まる講が行われる。御大師様ともよばれる。掛け軸をかけ、大きな数珠をまわして祈る。

庚申塔⓳

神郡の西、普門寺のある丘からの用水路と神郡北からの用水路が交わる地点にある。

石井の井戸⓴

かつて神郡地区と館地区に十近くあった井戸（湧水）の一つである。昔は井戸の回りに、しめ縄が張られていた。普門寺の裏参道沿いにある。市村、石井、桜井、武井、富田、肥田、飯田、阿久津、關伽井（赤井）など、住民の苗字や地区名の由来にもなっているが、現存しているのは神郡地区には他一ケ所（㉑で示す）だけである。

石井邸㉒

赤門が目印。江戸後期に割本名主となる。五層の茅葺屋根をもつ母屋は、役所や旗本の井上家の滞在場所にもなった。当時の様子を残す高い天井の部屋や資料がある。

歩いて発見！
神郡マップ

2011年3月発行（第三版）

●この地図について

2005年11月19日に神郡で行われた、2005アースデイつくば合同企画「歩いて発見！ 地図つくり 神郡編」の記録より作成しました。筑波山神社へとつづく「つくば道」沿いの神郡地区を、講師の井坂敦実先生に話を伺いながら、13名の参加者と共に歩き、知見を深めました。

旧道や自然、史跡を見つけることで、先人の自然とつきあう生活スタイルを見直すきっかけになればと思います。お気づきの点がありましたら、アースデイつくば事務局までご連絡ください。

●参考文献

『筑波町石造物資料集 上巻』 筑波町史編纂委員会、1983年
『筑波の文化財
（寺社建築編・彫刻編・工芸編・絵画編・板碑編・補遺編）』
つくば市教育委員会、1989～1991年
『郷土の先達とゆく筑波山』 結ブックス、2007年
『いまに残る郷土の文化遺産 つくばの古絵図』
（財）日本地図センター、2006年発行

●監修／井坂 敦実（郷土史研究家）

●注意

建物や遺構の多くは個人の所有地であり、神社仏閣は地域の大切な場所。訪れる時は、地域の方々の生活の迷惑にならないようにお気をつけください。

交通

【つくバス】つくバスはつくば市のコミュニティバスです。
電話029-883-1111（代）つくば市交通政策課

●つくバス北部シャトル（約29分間隔で運行）
TXつくば駅・つくばセンター発→
筑波窓口センター下車、
北条より「つくば道」を通って神郡へ。

●つくバス小田シャトル（約41分間隔で運行）
TXつくば駅・つくばセンター発→
大池・平沢官衙入口で下車し西へ向って神郡へ。
または北条、筑波窓口センターで下車して、
北条より「つくば道」を通って神郡へ。

【関東鉄道バス】
JR土浦駅より筑波山口行きのバスに乗車し、バス停「北条仲町」で下車。北条が起点のつくば道を北上すると神郡南に至る。または、バス停「大貫」で下車し、東へ1.3km歩くと神郡北の点滅信号に至る。

【りんりんロード】
筑波鉄道廃線跡に整備した岩瀬土浦自転車道。前述の大貫交差点より神郡北へと続く道と交差する。

【自動車】
筑波山入口のある県道沿い、ENEOSのガソリンスタンドがある「大貫」交差点を曲がり、田んぼの道を1.3km直進。神郡北の点滅信号へ至る。

Think Globally, Act Locally.

発　行：つくば市
編集・お問合せ：アースデイつくば実行委員会
事務局 〒305-0023 つくば市上ノ室292-5
認定NPO法人 宍塚の自然と歴史の会
TEL／FAX 029-857-1555
mail:sisitsuka@muf.biglobe.ne.jp
制作／ガイアグラフィクス

普門寺（ふもんじ） 23

真言宗で鎌倉末期の創建と伝えられる。江戸時代には約三百の門末寺院をもつ。室町から戦国時代には茨城南部を治めていた小田氏（つくば市小田に城跡）の北の祈願寺で、南の法泉寺（大岩田）、東の南円寺（手子沼）、西の大聖寺（土浦市永国）で四方を固めていた。境内に四つの寺にちなんだ歌碑がある。境内にある休憩所やトイレはお借りすることができる。九月二十三日の秋分の日には、歴史講演会と御施餓鬼（おせがき）が行われる。

普門寺の赤門

普門寺の黒門

赤門・黒門 24

かつてあった白門と合わせて、参道が極楽への道となるように各門が配色されたと聞く。

梁の紋様や主柱の飾りから、江戸初期に作られた門が江戸後期に改修・再建されたと推定される。

庫裏（くり） 25

江戸中期の建築。太い柱と高い天井。戸袋がない雨戸と三本溝の敷居に古い建築様式が見られる。室内に吊り下げられているカゴは、かつて住職が移動するために使われていた。

天狗党の石碑 26

江戸末期、尊皇攘夷を掲げて水戸藩士が天狗党と名乗り筑波で挙兵、その一隊を率いる田中愿蔵が庫裏に陣を構えていた。村民から米やお金を強引に徴収したと聞く。

石造九重層塔 27

室町時代末の建立。完全に残っているのは珍しい。県指定文化財。近くに、普門寺特有の住職代々の墓が並ぶ。

入定所（にゅうじょうしょ） 28

江戸時代に普門寺の住職が即身仏になるために入定した所。入定した穴の上に地蔵がある。今でも毎月、献花に来る方がいる。

近くに、室町時代の様式をもつ五輪塔があり、小田氏八代孝朝の墓と伝えられている。

田井郵便局 29

窓口で郵便を出す時にお願いすると「日本の道路百選 神郡街道」のスタンプを押してくれる。

神郡の行事

神郡祇園祭

毎年七月中旬に行われ、田井ミュージアム①横の駐車場に祭本部が置かれる。かつては蚕影神社からの神輿が担がれていた。

えびす講

毎年十一月二十一日。農家が仕事を一段落させて家族でおそばを食べて祝う。神棚に供え物を祭る。